



Mutual prosperity to both nature and mankind through creativity innovation and sensitivity
www.namics.co.jp

2024 CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report



2024 CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report

目次 Contents

-
1. 編集方針
 2. トップメッセージ
 3. 企業理念・経営基本方針・行動指針
 4. CSR基本方針
 5. 会社概要・グループ概要
-

マネジメント

-
6. コーポレートガバナンス
 7. CSR推進体制
 8. リスク管理
-

ナミックスグループのCSR重要課題

-
9. ナミックスグループのCSR重要課題の特定
-

CSR重要課題への取り組み

-
10. 働く人の安全確保
 11. 持続可能を目指す環境負荷低減への取り組み
 12. お客さまに安心してお選びいただけるバリューチェーンづくり
 13. ダイバーシティ・サステナビリティの推進
 14. 社会資本への投資
-

1. 編集方針

本レポートについて

ナミックスグループでは、当グループが取り組むCSR活動につきまして、広く皆さまからご理解いただき、対話促進のツールとしてご活用いただくため、国際的な報告ガイドラインであるGlobal Reporting Initiativeの「The GRI Sustainability Reporting Standards (GRI スタンダード)」を参照し、CSRレポートを本年も発行することといたしました。

報告期間

2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）

対象範囲

ナミックス株式会社及び国内外の全事業所

発行履歴

初 版 2016年 12月

第2版 2017年 9月

第3版 2018年 9月

第4版 2019年 9月

第5版 2020年 9月

第6版 2021年 9月

第7版 2022年 9月

第8版 2023年 9月

第9版 2024年 9月

次回発行予定

2025年 9月

参考ガイドライン

GRI スタンダード2021改訂版

2. トップメッセージ

2023年度を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の5類移行を機に、当社では対面でのビジネスを再開しました。私たちの製品作りはお客さまの声を聞くことから始まります。再び世界中へ足を運べるようになり、改めてお客さまニーズに重点を置いた経営を進めて参ります。

当社は、1946年の創業から変革を経てエレクトロケミカル材料分野に特化し、絶縁・導電材料の開発・生産に注力して参りました。国内外のお客さまからのきめ細かなご要望に応えるべく製品の研究・開発に努めた結果、現在では売上高の海外比率は約85%、半導体向け液状封止材の分野では世界シェアの約40%を占めております。

旧社名の「北陸塗料」から現社名である「NAMICS」への変更は、創業50周年の1996年でしたが、そこには自然と人間の共存共栄および相互の繁栄と、それを実現するための企業姿勢として感受性、革新性、創造性が不可欠であるとの想いが込められています。「自然と人間の共存共栄」の精神は世界規模で取り組みが進む「SDGs」つまり「持続可能な社会の実現」に通じるものです。

また、当社では、組織の基本目的を示す「企業理念」、企業体質や長期的に目指す姿を示す「経営基本方針」、社員一人ひとりの行動基準となる「価値観（NAMICS WAY）」を「経営のベクトル」の重要な柱として位置づけ、加えて、企業活動を通じた社会貢献である「企業の社会的責任（CSR）」も踏まえ、健全な経営と持続的な事業運営に取り組んでいます。

持続可能な社会の実現のためには、環境問題、人権問題など解決すべき課題が世界中に山積しています。当社では、事業を通じた社会貢献活動に加え、エレクトロニクス産業とサプライチェーンにおける労働者に対する人道的配慮や環境負荷に対する企業の責任を重視する世界的な基準である「RBA行動規範」に準拠した事業活動に取り組んで参りました。

重要課題への取り組みについては、当社では、世界へ向けた製品の安定供給を大きな課題と捉え、生産拠点の分散化だけでなく、事業継続マネジメントの強化をはかるため「事業継続計画（BCP）規程」を定めています。自然災害や感染症の発生・拡大など緊急事態発生時、お客さまへの継続的な製品供給を第一に、業務の早期再開および経営資源の被害軽減、復旧対策等の対応策を計画的に実施することを目的としています。



また、環境負荷軽減の取り組みとして、環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善を通して社会的責務を果たしています。具体的には、環境に配慮した社屋の建設、社有車のEV化・ハイブリッド化、環境負荷の小さい調達品の選定、廃棄物発生抑制とリサイクルの推進など環境保全活動を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めています。

次代を担う人財の育成については、「良い会社の実現と従業員の豊かな人生づくり」を基本方針とし、社員のエンゲージメントを醸成する組織の開発や組織風土の構築に重点を置き取り組んでいます。ほかにも、職位等に応じた階層別研修や女性の活躍推進を目的とした県内異業種の女性社員交流会の共同開催、専門知識・技術の習得を目的とした部門別研修、グローバル人財養成のための国際化プログラムなど、従業員に多様な成長の機会と環境を提供しています。

先述のとおり、当社は売り上げの約8割を海外が占める企業ではありますが、地域社会と共に持続的な成長が可能となるような取り組みを進めております。社員による地域のボランティア活動をはじめ、青少年育成のための文化・教育活動への後援、地域スポーツ振興のための協賛、当社が運営する事業内保育園で社員以外のお子さまの受け入れなど、さまざまな活動を通じて地域社会への貢献を積極的に推進しています。

最近の取り組みといたしましては、世界的なデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展に伴う電子部品やデバイスの市場拡大を見据え、創業地である新潟市内に新工場建設の準備を進めています。延べ床面積は本社工場の約1.6倍で、竣工後は国内の生産能力は約2倍へ拡大し、世界市場へ品質の優れた製品の安定的な供給に努めて参ります。

また、新たな事業として、新潟市北区でスマート農業、同西蒲区で観光農園事業に取り組み、2024年度内には試験場が立ち上がる予定です。植物を育てるには温度・湿度管理と光の波長や水の管理が重要なポイントです。私たちが工場内で培った技術を生かしながら、フルーツなどの屋内栽培を手始めに、地域農業の活性化に資する取り組みを行って参ります。

結びに、ナミックスは今後も継続的な事業活動を通じ、地域社会との共存共栄を図り、創業の地である新潟をはじめ各拠点のある地域においても、みなさまからご評価いただけるような活動に邁進していく所存です。



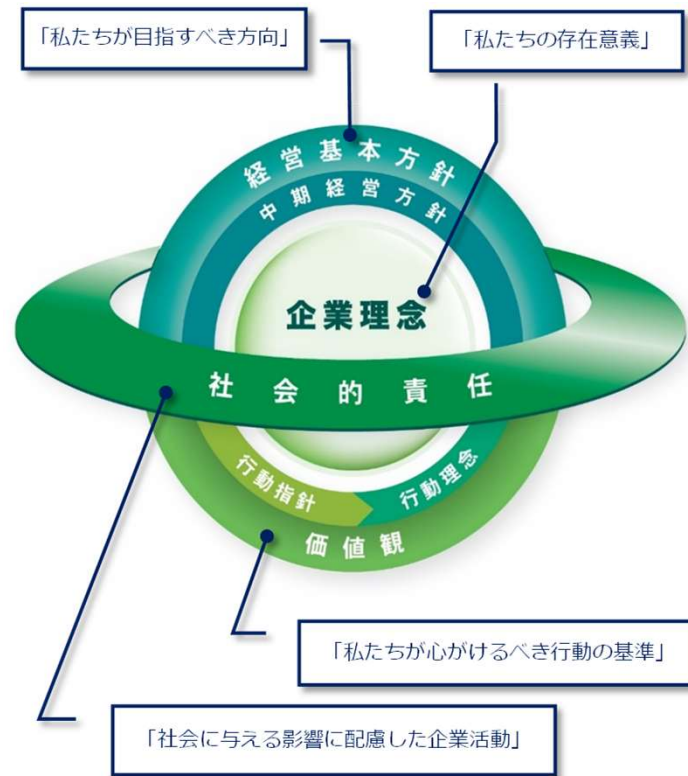
2024年9月

ナミックス株式会社

代表取締役社長 小田嶋 壽信

3. 企業理念・経営基本方針・行動指針

NAMICSの「経営のベクトル図」(企業理念体系)

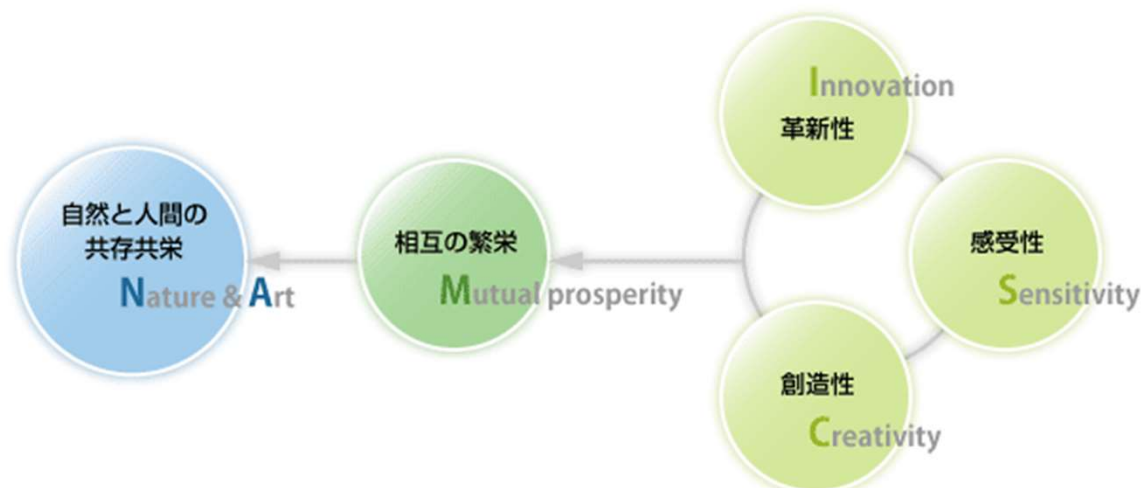


企業理念 — 私たちの存在意義 —

『創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する』

私たちは相互繁栄こそが経営の基本であり、企業としての存在目的でもあると考えます。その最終目標は自然と人間の共存、そして共栄です。

これらを実現するための企業姿勢として感受性、革新性、創造性が不可欠であるとの思いが、「NAMICS」の社名に込められています。



経営基本方針 — 私たちが目指すべき方向 —

Create value for the future ～ 「オンリーワン」 かつ 「ナンバーワン」 企業へ ～

- 発想力と技術力で未来の可能性をつくり出す企業へ
- 変化に向き合い、社会・市場に信頼される企業へ
- 仕事に誇りを持ち、真の幸せと生き甲斐が持てる企業へ

ナミックスは、経営基本方針「Create value for the future」のもと、未来へ繋ぐ新しい価値創造を通じて、「オンリーワン」かつ「ナンバーワン」企業の実現を目指します。

価値観（NAMICS WAY） — 私たちが心がけるべき行動の基準 —

行動理念：『自立・自動・自助』

「自分の人生を生きているのは自分自身である」ことを自覚し、納得のいく人生を送ろう

行動指針：『挑戦』 好奇心を持ち、柔軟な発想力で挑戦し続けよう

『成長』 自らが変革を促し、目的を実現するために成長しよう

『尊重』 コミュニケーションを高め、お互いに尊重し合える関係性を築こう

私たち一人ひとりの日々の行動、判断基準となる共有の価値観（NAMICS WAY）、それが「行動理念」「行動指針」です。自らの人生を充実したものにするため、個人・集団としての判断のよりどころとして、自らが理解して、自らが納得した上で行動へ繋ぐことを重視し、主体的な思考とコミュニケーションを通じた行動に努めます。

社会的責任（CSR） — 社会に与える影響に配慮した企業活動 —

『社会的責任と遵守』

事業活動を通じて社会の発展に貢献していくことが企業の社会的責任の中核です。IoTに代表される技術革新と生活や産業のあり方は、時代背景の中で変化しながら、常により高いレベルが求められています。技術の進化や創造に不可欠な製品・サービスを提供し続けるために、短期・中長期バランスのとれた経営を進めていきます。

4. CSR基本方針

私たち一人ひとりが社会的責任意識の高い市民として行動することは、当社が健全で継続的に発展するプロセスとして重要です。

私たちは徹底的な環境保全やグローバルな供給体制、企業活動全般のコンプライアンス、社会的倫理等に適合した行動など、あらゆる企業活動の場面においてCSRを重視すると共に、継続的に見直し、レベルアップに努めていきます。

事業を通じた社会貢献

- 社会的に有為な製品・サービスを、品質・安全・環境負荷に十分配慮して安定的に提供する
- 事業活動の展開は、国際社会、地域社会の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する

コンプライアンス

- 関係法令、社内規定を遵守した企業行動を徹底する
- 公正・自由な競争・取引を行い、政治・行政・市民および諸団体との健全な関係を維持する
- 企業情報の適切な開示による透明性と個人・顧客情報の適正な管理を徹底する

人権の尊重

- 全ての人の人権を尊重し、人権・性別による差別や児童労働・強制労働を含む個人尊厳を損なう行為を禁止する
- 従業員の資質が最大限に発揮できる、安全且つ衛生的な職場作りを推進する



5. 会社概要・グループ概要

会社概要



会社名 ナミックス株式会社 (NAMICS CORPORATION)

本社所在地 〒950-3131 新潟県新潟市北区濁川3993番地

設立 1947年（昭和22年）2月

資本金 8,000万円

代表者 代表取締役社長 小田嶋 壽信

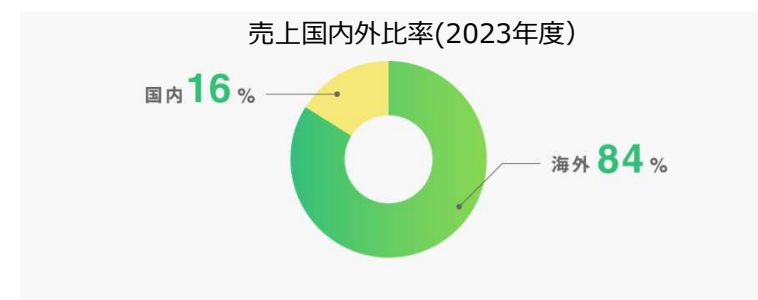
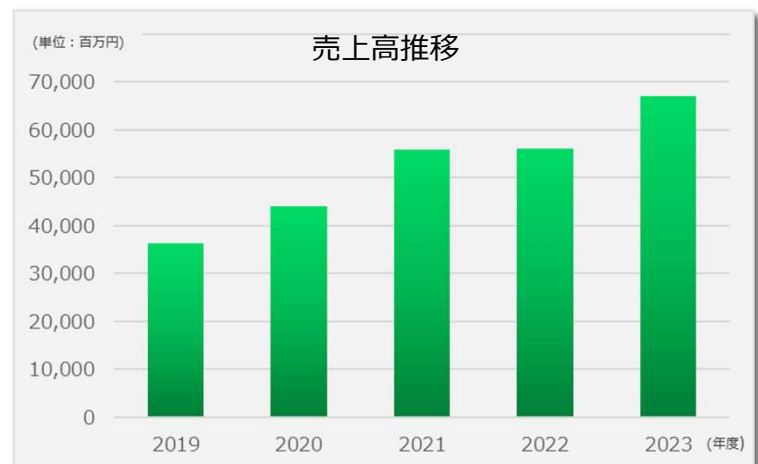
事業内容 エレクトロケミカル材料の研究・開発、製造、販売

売上高 670億円（2023年度実績）

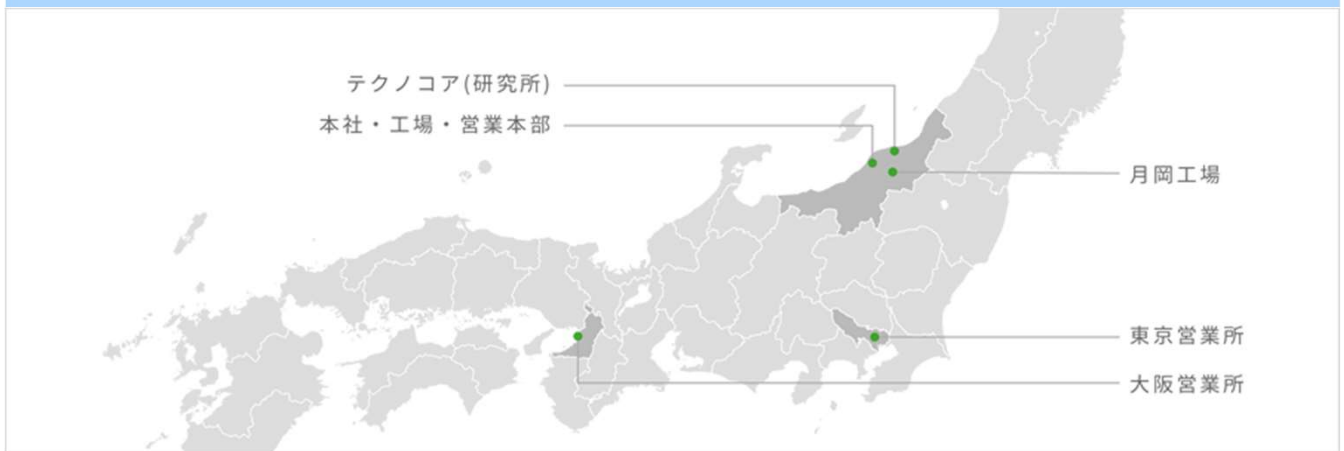
従業員数 728（2023年度末現在）

研究開発費 7 %（2023年度実績）

加入団体 一般社団法人 電子情報技術産業協会
一般社団法人 日本電子回路工業会
新潟商工会議所



国内拠点



海外拠点



ナミックスでは、社会的に有為な製品・サービスを、品質・安全・環境負荷に十分配慮して安定的な提供を行っており、事業活動の展開として、国際社会、地域社会の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献できるよう推進しています。



当社は、環境に有害である鉛を用いない製品、廃棄物を少なくするロングライフ製品、有害物質を用いないRoHS対応製品等、環境に配慮した製品開発を推進しています。

例えば、太陽電池パネルにおいては、より低コストで高い変換効率の実現に向け、太陽光発電に使用されるセルの太陽電池用電極材の開発に力を注いでいます。

また、製造プロセスは、製品の原材料受け入れから製品の出荷まで最新システムによって厳しく管理しています。これにより、品質特性の変動が極めて少ない、信頼性の高い製品を安定的に提供します。

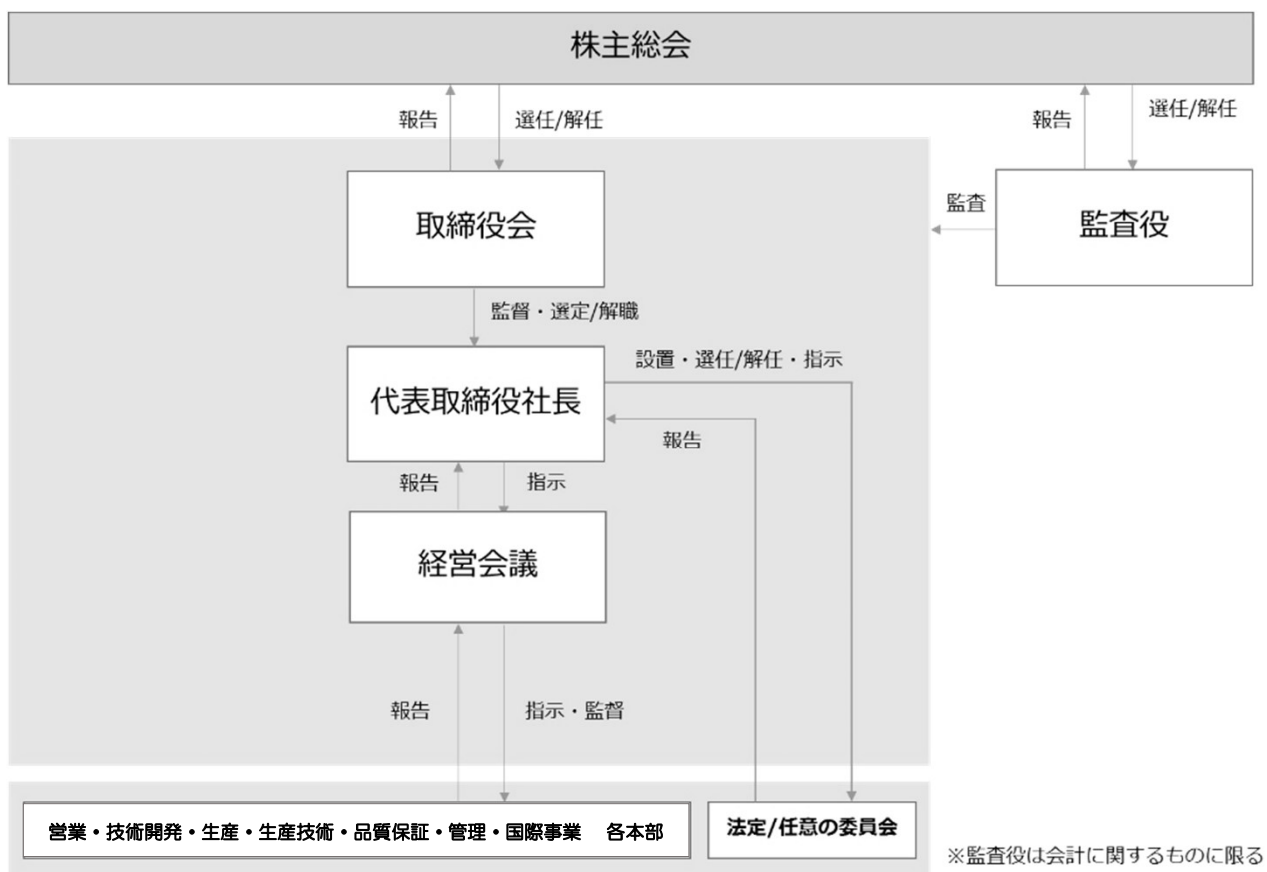
さらに、当社は、材料（絶縁・導電）技術、プロセス（配合・分散）技術、評価解析（材料・構造解析）技術をコア技術に、最新の設備と機器を揃えた研究開発施設において新たな技術開発に取り組み、安全で環境負荷の少ない製品開発を行っています。

環境保全やグローバルな供給体制作りを推進して行く中、様々な環境変化に対応する上で災害時などの緊急時においても安定した製品供給を行うため、海外の生産拠点を拡充しています。新工場を立ち上げる際には、より高効率生産ができるような設計を導入すると同時に、地域社会の文化や慣習を尊重、共存し、社会の発展に寄与できるように事業活動を進めて参ります。

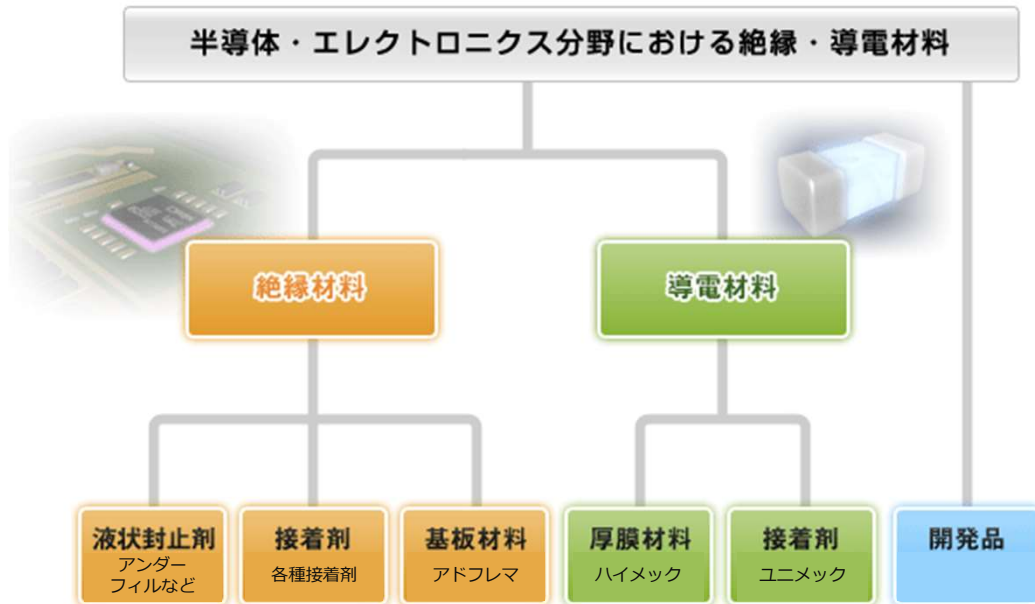
6. コーポレートガバナンス

取締役会・経営会議

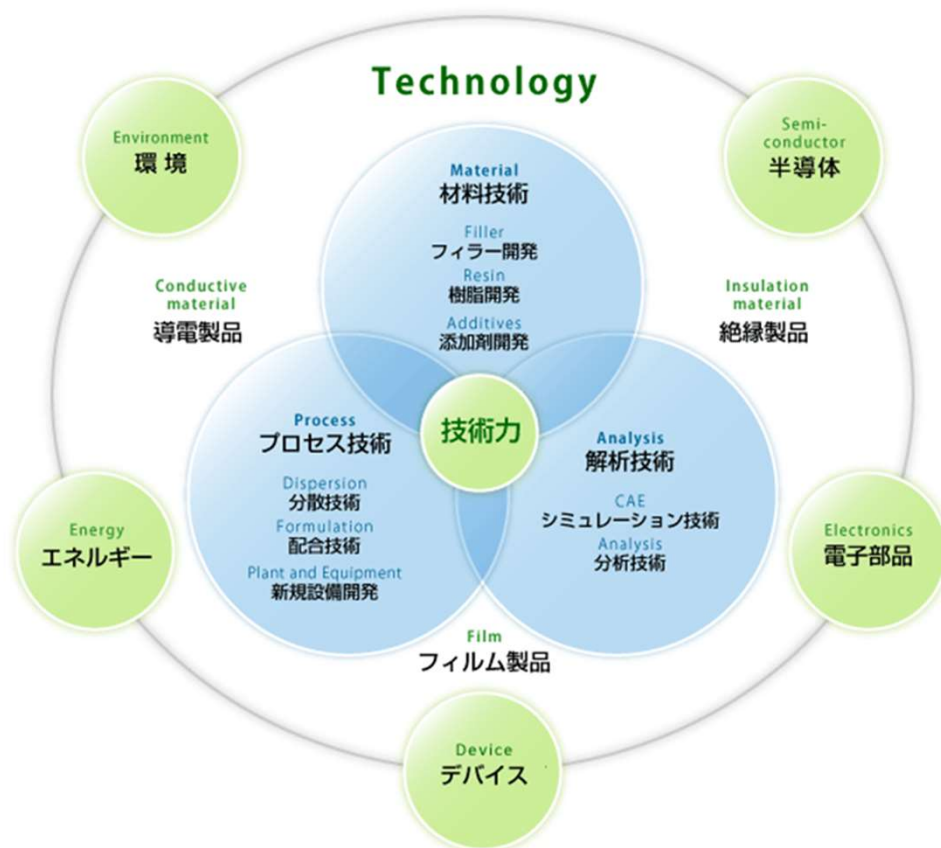
全社に関わる重要案件を審議し決定する機関として取締役会と経営会議があり、それぞれ原則として月1回以上開催しています。取締役会では会社の基本方針の決定や 会社法、定款などで定められた重要な業務執行について審議し決定を行っています。経営会議では各部門・会社全体の課題を審議し決定しています。



当社の製品分野



当社の技術



海外子会社の運営

本社による海外拠点の統括

海外に販売会社を設立したことを契機に、2006年より年1回、本社に海外子会社の責任者を招集してインターナショナルミーティングを開催しております。

インターナショナルミーティングは、次年度が始まる直前の3月末に行い、会社方針の概要、営業本部方針、海外子会社の計画の発表を行い、活動を見える化しております。

また、2014年度からは、海外販売会社（7拠点）と毎月のリモート会議や定例のインターナショナルミーティングを開き、

- ① 販売計画の進捗の確認
- ② 各販売会社の組織課題
- ③ 各地域営業戦略
- ④ 各地域で特定した課題

などについて確認・討議を行い、本社統括機能の向上と海外販社の営業能力強化を目的とした活動をしております。

海外子会社への人事・労務監査

2014年から、海外のグループ会社に対しても本社総務・人事グループが海外各拠点の人事労務面の仕組みやルールを整備、グループ企業としての人事労務の維持管理を目的に、人事・労務監査を実施しています。

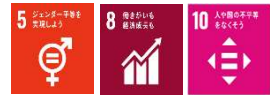
毎年、それぞれの国の雇用情勢を踏まえ、各国の労働法規に準拠した人事労務関連規定類の策定およびメンテナンス、現地での運用状況の監査とフォローを実施していく計画です。

人事・労務監査は人権尊重・法令遵守の側面に加え、ナミックスグループのダイバーシティ推進および海外グループ会社へのガバナンス向上にも貢献しています。

取り組み事例	海外拠点の自立的な業務運営へ向けての本社からの人事労務サポート
根拠・意図	・ 海外各拠点の人事労務面の仕組みやルールを整備 ・ グループ企業としての人事労務の維持管理
取り組み内容	・ RBA行動規範などグローバルなCSR基準及び各国の労働法規に準拠した人事労務関連規定類の策定及びメンテナンス ・ 現地での運用状況の監査とフォロー

INTERVIEW

海外で活躍する社員の声



新潟県から世界へ

当社ではグローバル企業として成長を遂げていくために、その手段の1つとして、海外販売会社に日本人駐在社員を派遣しております。

ここでは、言葉の壁・文化の壁を乗り越え、自身のスキルを磨き、世界でチャレンジするチャンスを掴んだ海外で活躍する日本人社員をご紹介します。

▼仕事内容をお聞かせください。

本社・ドイツそれぞれの要望・確認事項等を双方に伝える架け橋のような業務に加え、現地メンバーと共に欧州顧客の主対応・顧客訪問や採用・量産化への導入のサポートをしています。

▼日本との違いについて感じたこと、驚いたことをお聞かせください

仕事と同じくらい家族やプライベートを大事にし、週末だけでなく平日の仕事後アフター5にも趣味を楽しんでいることですかね。一方、外出時のトイレやレストランの飲料水は基本有料、外食すればチップ込みで3,000円越えは当たり前という文化にも驚きました。

▼仕事のやりがいをお聞かせください

担当顧客からの要求をヒアリングし、当社技術部門へ伝え、製品開発、採用に繋がったとき、「小熊が担当窓口で良かった！」とビジネスの垣根を超えた家族のような関係性を顧客と築き上げられたときはやりがいを感じました。



所属部署：営業本部
海外セールスグループ
赴任歴：5年
名前：小熊渚音 (Nagito Oguma)



▼本社（新潟）からのサポート内容をお聞かせください

タイミングを図って日本から技術サポートとして顧客訪問に同行し、技術的解決に協力していただいています。また、ドイツと日本で最大8時間の時差があり、リアルタイムで会話ができないなか、ドイツ始業前にアイデアや解決策を検討してくださっているのは大変助かります。

▼海外赴任を経験してよかったと思うことをお聞かせください

世界の色々な文化や背景を持った人と関わり、視野が広がったことで、自分が思っている概念が当たり前ではないということに気づけました。また、他者に対して寛容になり、人間的にも成長できた気がします。

▼今後の夢や目標を教えてください

会社・当社製品・関連市場の知識を更に身に付け、海外の方と対等に会話をして働きたいです。そして、ナミックスなら、小熊なら信用できると思ってもらえるような存在になりたいと思います。

7. CSR推進体制

ナミックスグループの社会的責任は企業理念を実践し、ステークホルダーの皆さまに貢献することと考えております。

その実行のためにCSR基本方針と各種社内規程を定め、活動を行っています。企業活動のあらゆる面において、CSR活動を全社的に推進するために、代表取締役社長の統括のもと、CSR委員会を設置する体制を取っております。



8. リスク管理

事業継続計画（BCP）規程

当社では「事業継続計画（BCP）規程」を定めております。「BCP規程」は、大規模地震発生等の自然災害や感染症の発生・拡大等の緊急事態が発生した場合に、お客さまへの製品供給を含めて早期の業務再開を図ること、および経営資源の被害軽減や、事前対策・復旧対策等を積極的に推進し、計画的に実施することを目的としています。各拠点・各工場が「BCP規程」に基づいて事業継続計画を策定し、災害や事故に備えています。

リスク発生時の体制

- 対策本部長： 社長(不在時は次順位の役員が代行)
- 本部構成員： 経営会議メンバーを基本とし、各部門GMで構成
- 事務局： 経営企画室、総務グループ

事業所分類	役割
被災事業所	出社できた社員で現地災害対策本部を設置し、被害状況の把握、社員の安否確認、支援事業所への連絡を行うとともに、可能な限りの復旧活動を開始する。
第1支援事業所	被災事業所の情報を収集するとともに、災害支援本部を設置し、第2支援事業所と連絡を取りながら支援活動を開始する。 被災事業所が甚大な被害を受け機能しない場合または本社から要請があった場合は、被災事業所の緊急時活動を代行する。
第2支援事業所	第1支援事業所が活動できない場合や、第1支援事業所又は本社から要請があった場合に支援活動を行う。

BCPワークショップの様子



9. ナミックスグループの CSR重要課題の特定

ナミックスでは、このたびCSRレポートを編集するにあたり、当社にとって重要なCSR課題の分析を行いました。この課題分析は、毎年見直していく予定です。

課題の特定と優先度評価

CSR委員会が当社の経営理念、中期経営計画の中核課題、当社顧客及び社員等の情報をもとに、重要な課題を抽出特定し、ビジネスおよびステークホルダーの観点の2軸から評価・優先順位付け・抽出。

経営層による承認

役員・執行役員、SGMの出席する経営会議での検討・承認。

当社にとって、特に優先度の高いCSR課題は下記のものとなります。

- 働く人の安全確保
- 持続可能を目指す環境負荷低減への取り組み
- お客さまに安心してお選びいただけるバリューチェーン作り
- ダイバーシティ・サステナビリティの推進
- 社会資本への投資

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS SDGsの取り組みについて

1996年、当社は創業50周年を機に「NAMICS」と社名を変更しました。自然と人間の共存共栄、相互の繁栄それを実現するための企業姿勢として感受性、革新性、創造性が不可欠であるとの思いが「NAMICS」という名に込められています。（3ページをご参照ください）

私たちの企業理念である「創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する」ということも世界規模で取り組みが進むSDGs、つまり「持続可能な社会の達成」に他なりません。

NAMICSは今までも、そしてこれからも、永く続くより良い社会を実現するため責任と役割を果たしていきます。



10. 働く人の安全確保

ナミックスはCSR基本方針「従業員の資質が最大限に発揮できる、安全且つ衛生的な職場作りを推進する」のもと、予防管理に重点を置いたさまざまな安全衛生活動を実施しています。

労働安全



安全衛生パトロール

当社では、労働災害・事故等の未然防止を目的として安全衛生パトロールを実施しております。定期的な現場の安全衛生巡視は、安全で快適な職場づくりを進める上で不可欠なものであり、現場の危険性や有害性の早期発見に貢献しております。

指摘事項はリスクアセスメントにて評価し改善活動を実施しております。

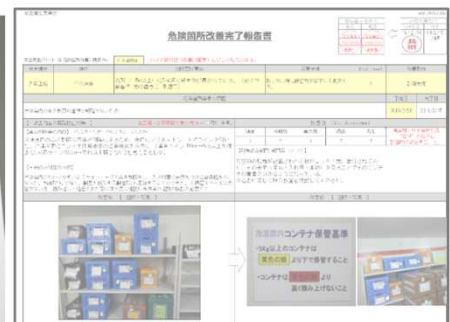
安全衛生パトロール指摘事項件数（2023年度末）

単位（件）

項 目	2021年	2022年	2023年
指摘件数	94	87	58
改善件数	94	86	53

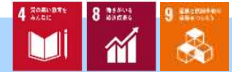


安全衛生パトロール風景



危険箇所改善完了報告書

教育・訓練



社員の安全、健康を守るため、法令で定められている「安全衛生教育」に加えて、総務グループが当社事業に必要な教育・訓練を見直し・実施しています。

教育訓練プログラムと受講者数（国内）

単位（人）

プログラム	2021年	2022年	2023年
防災・消防訓練	607	615	531
防災・防火教育	228	200	198
危険物事故防止研修会	1	—	—
毒劇物保管管理者教育	—	—	—
応急手当普及員教育	—	2	—
合 計	836	817	729

防災救護訓練



消火訓練



緊急事態対応訓練



避難訓練

労災発生件数

単位（件）

項 目	2021年	2022年	2023年
労災発生件数（国内）	4	4	7

11. 持続可能を目指す 環境負荷低減への取り組み

ナミックスは「人間と自然の共存共栄」を理念においた「相互繁栄」こそが経営の基本であると考えています。そしてその相互繁栄に貢献する企業活動への思いが当社の社名「NAMICS」に込められています。

そのための一つの方策として、環境マネジメントシステムを構築し、2003年11月にISO14001を認証取得し、さまざまな活動を行っています。

環境方針



当社は多くの水辺空間を有し、ゆたかな川の流れが日本海に注ぐ“水の都”新潟市の東部に位置し、周囲を田畑の実りに囲まれています。

創業以来この豊かな自然を守り、SEEDS（S：半導体、E：環境、E：エネルギー、D：デバイス、S：システム）をキーワードにエレクトロニクス製品に関わる絶縁・導電材料の研究開発を積極的に行い、製品供給を通して人々の生活文化の向上に寄与してまいりました。

今後も、会社や自然といったすべての関係において共存共栄を実現し、ともに繁栄することを目指しています。

1. 環境保全活動を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を通して一層の社会的責務を果たす。
2. 環境方針はすべての社員に周知し、一人ひとりが地球環境問題を自覚し、社会に貢献するよう努める。
3. 環境保全に関する法令を遵守し、当社が同意する業界や関連団体の指針を含む国際的な協調に努め、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系を保護し、汚染の予防と安全操業・保安防災の向上を図る。
4. 事業活動に係わる環境側面について、次の環境保全活動を主軸として推進する。
 - 4-1. 省エネルギーの推進
 - 4-2. 3Rの推進（発生抑制：Reduce、再使用：Reuse、再資源化：Recycle）
5. 製品の環境負荷低減のために、次の活動を推進する。
 - 5-1. 製品の持つ環境影響を最小限にするよう配慮した研究開発・設計に取り組む。
 - 5-2. 製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替を推進する。
 - 5-3. 製品包装材料の最小限化に取り組む。
 - 5-4. 環境に配慮した資材調達活動を積極的に展開する。
6. 環境影響評価の結果を考慮し環境方針と整合した環境目的を中期計画として策定するとともに、単年度ごとに環境目標を策定し具体的な実施計画を設定し実行する。

ナミックス株式会社
代表取締役社長 小田嶋 壽信

ISO認証取得状況

ISO14001の認証取得状況は以下の通りです。

その他、品質のISO規格であるISO9001:2015、IATF16949:2016も認証取得済みです。

登録事業者	ナミックス株式会社 関連事業所 ・月岡工場 ・ナミックステクノコア
登録範囲	電子部品外装用コーティング剤・ペースト・粉末、半導体封止用樹脂、電子部品・電子回路用及び電池用導電性ペースト、導電性粉末、導電性接着剤、ディスプレイ用導電・絶縁材料、電子部品・電子デバイス用フィルム材料、電子部品等の表示用ペーストの設計・開発及び製造
取得年月日	2003年11月21日
審査登録機関	一般財団法人 日本品質保証機構（JQA）

廃棄物教育



企業理念及び環境方針に対する理念の共有と意識の醸成を図ることを目的に「廃棄物教育」を廃棄物に関わる業務に携わる従業員、また受講希望者を対象に実施しています。

また、法令違反が生じた場合、罰金や訴訟のほか、企業名の公表による経済的損失や信頼喪失につながることを従業員一人一人に法令遵守を徹底に努めております。

教育内容は「1.廃棄物処理に関わる法令」、「2.廃棄物の分類と処理フロー」、「3.廃棄物回収処理の依頼方法」、「4.廃棄物排出状況とリサイクル率の実績」、「5.廃棄物処理費用」を行い、教育終了後に理解度チェックを行っております。

項 目	2021年	2022年	2023年
廃棄物教育受講人数	65	138	109

1.廃棄物処理に関わる法令

廃棄物処理法に違反した場合は最大で「5年以下の懲役または1,000万円以下の罰金（法人の場合は3億円以下の罰金）もしくはその両方」の罰則を受ける可能性があります。違反行為は細かく分かれていますが大まかに次のようになっています。

- ① 廃棄物の不法投棄
⇒ 5年以下の懲役または1,000万円（法人3億円）以下の罰金もしくは両方
- ② マニフェストの不交付、虚偽など
⇒ 1年以下の懲役または100万円以下の罰金
- ③ 契約書を作成せず処理
⇒ 3年以下の懲役または300万円以下の罰金もしくは両方
- ④ 無許可業者へ委託処理
⇒ 5年以下の懲役または1,000万円以下の罰金もしくは両方など

Copyright © Namics Corporation All Rights Reserved.

2.廃棄物の分類と処理フロー

「産業廃棄物」は、家庭から出る「一般廃棄物」とは全く違うルールと分別方法で厳しく管理されています！！

Copyright © Namics Corporation All Rights Reserved.

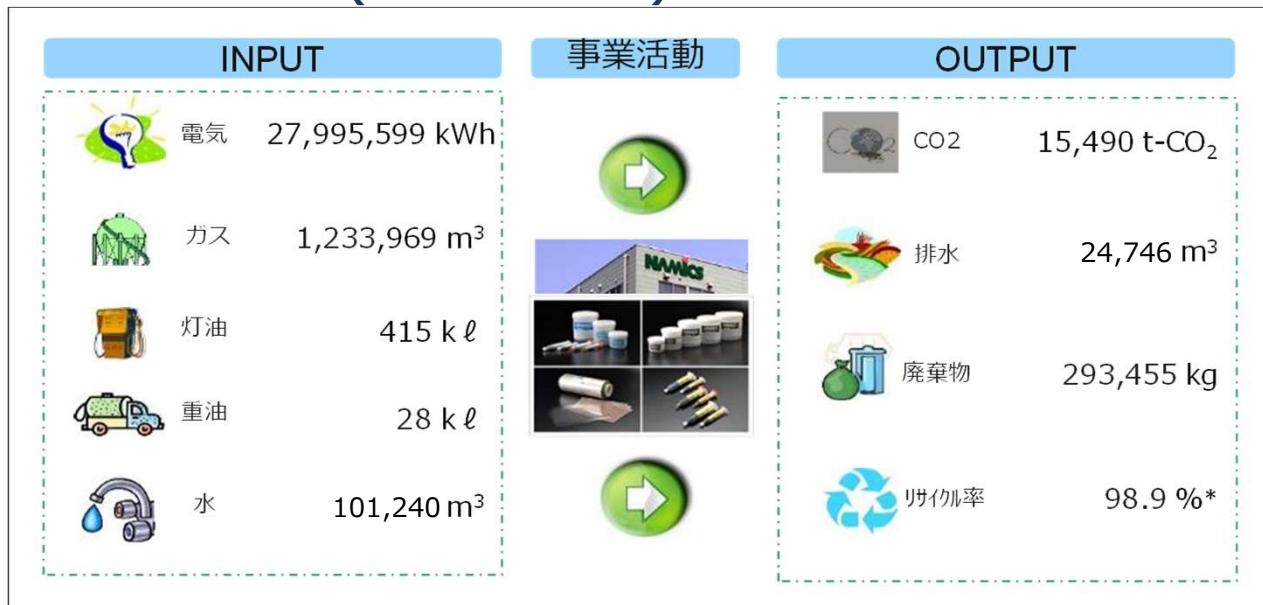
廃棄物教育資料より

環境保全への取り組み



ナミックスグループでは、廃棄物の減量化、発生した廃棄物の再資源化に取り組んでいます。

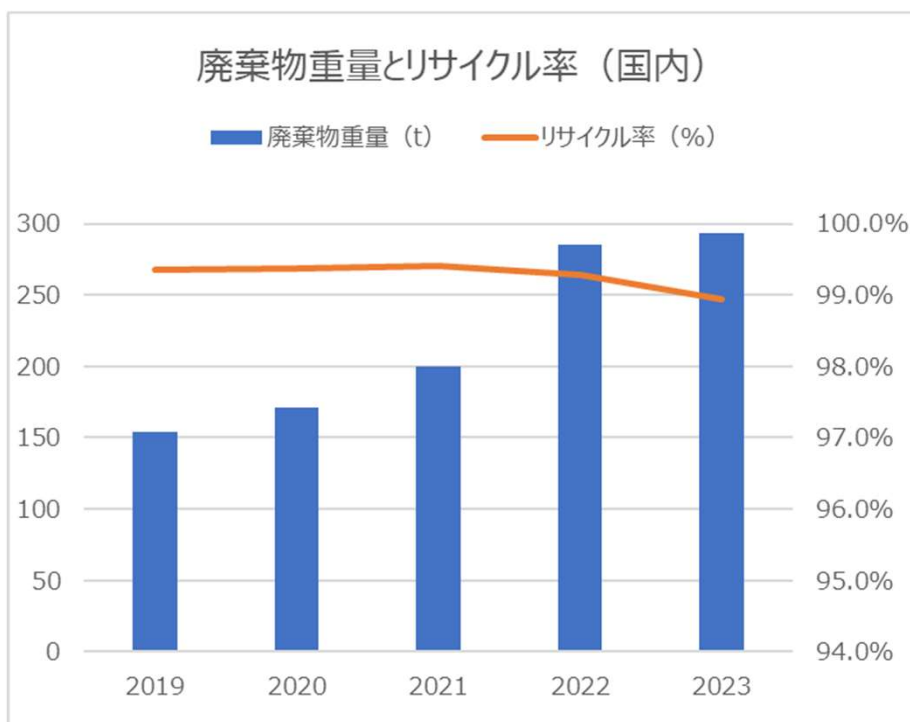
環境負荷の全体像（海外工場を含む）



国内工場の測定値は2023年度の実績、台湾工場の測定値は2023/1～2023/12の実績

※国内工場のみ 台湾工場では全て政府指定の産廃業者で焼却し灰で処理

廃棄物発生抑制と再資源化（国内）



生産量の増加に伴い廃棄物も増えていますが、生産ロス削減の取り組みや、溶剤の再利用推進、廃棄物教育を通じた従業員への意識付け等を行い、廃棄物の削減に努めています。

また、リサイクルの方法としては資材としての再利用（マテリアルリサイクル）や燃料としての利用（サーマルリサイクル）を中心に埋め立て処理を減らす方針で取り組んでいます。

水質汚染防止への取り組み



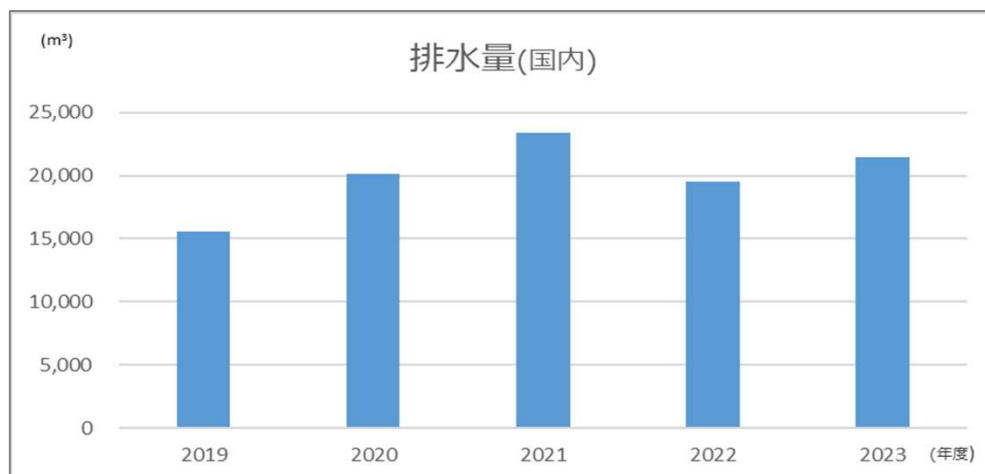
当グループでは、排水処理施設によって工場排水をきれいにし、法規を遵守することにより、公共水域の水質汚濁防止に努めています。

水質汚染防止のため、排水処理施設の日常点検・整備を行い、安定稼動に努めています。また、排水の水質は日々監視し、定期的に全項目の確認も行っています。

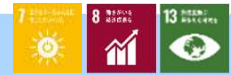


排水処理施設（本社工場）

項目		排水基準 (国内)	国内工場 (2023年10月測定)	
			No.1側溝放流水	No.2側溝放流水
pH		5.8~8.6	8.1	6.9
BOD		<40mg/l	1	2
SS		<50mg/l	6	6
ノルマル ヘキサン 抽出物質	鉱油類	<5mg/l	<1	<1
	動植物性 油脂類	<30mg/l		
フェノール類		<5mg/l	<0.01	<0.01
銅		<3mg/l	<0.01	<0.01
亜鉛		<2mg/l	0.07	0.74
溶解性鉄		<10mg/l	<0.02	0.05
溶解性マンガン		<10mg/l	<0.02	<0.02
大腸菌群		<3000個/ml	<30	<30
窒素		<100mg/l	<0.2	3.0
クロム		<2mg/l	<0.04	<0.04



脱炭素に向けた取り組み

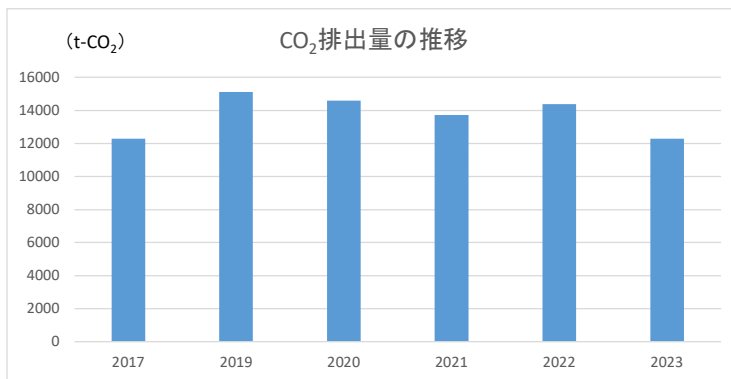


2015年のCOP21におけるパリ協定採択を受け、各国でCO₂排出実質ゼロの削減目標が決まり脱炭素化の動きが加速しています。当社は「自然と人間の共存・共栄」を目標とする企業理念の下、CO₂排出量抑制に向けた施策の実施に加え、省エネ運用ガイドラインを定め、エネルギーの合理的な使用に努めています。

2022年7月竣工の管理厚生棟は、ZEB Ready（※）の基準をクリアした建物で、自然採光の活用や高効率空調システムの導入により、新潟の寒い冬にも対応した高断熱外装で省エネを実現するとともに、太陽光パネルの設置により「創エネ」にも積極的に取り組んでいます。

※ ZEB Ready：ZEBはNet Zero Energy Buildingの略。ZEB Readyは省エネ設備を備え、エネルギー消費量を省エネで50%以上削減し、創エネも含めると最大75%未満の削減を満たした建築物のこと。

▼管理厚生棟



SBTイニシアチブの認定取得

当社は、2030年に向けた温室効果ガス排出削減目標において、SBT（Science Based Targets）イニシアチブ※ 1 より「1.5℃水準」の認定を取得しました。

■ 認定を取得した温室効果ガス排出削減目標※ 2

- スコープ1,2 のCO₂排出量を2029年までに42%削減（基準年2019年）
- スコープ3 のCO₂排出量を2032年までに30%削減（基準年2022年）

「創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する」という企業理念のもと、自然と人間の共存共栄を目指し、環境負荷低減への取り組みを推進しています。

今後も、お客さま、お取引先さま、地域社会の皆さまとも力を合わせ、持続可能な社会の実現への貢献を目指してまいります。



※1 SBTイニシアチブは、パリ協定目標達成に向け、企業に対して科学的根拠に基づいた温室効果ガスの排出削減目標を設定することを

推進している国際的なイニシアチブ。環境情報の開示に関する国際NGOであるCDP、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）の4団体が共同で2015年に設立。

※2 スコープ1: 事業者自らによる直接排出 / スコープ2: 他社から供給された電気などの使用に伴う間接排出 / スコープ3: スコープ 2以外のすべての間接排出

化学物質管理への取り組み



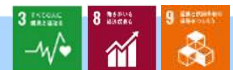
ナミックスの化学物質管理への取り組みは、アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP:Joint Article Management Promotion-consortium) が提唱する製品含有化学物質管理ガイドラインに沿った仕組みを構築して運用しています。

また、グリーン調達への取り組みは、2005年に“NAMICS グリーン調達基準書”を制定し、部品材料に含まれる化学物質自主基準を設けて含有する化学物質の検証を、お取引先様のご協力を頂きながら対応しています。

製品に含まれる化学物質の規制は、欧州は元より世界各国でその要求は高まりを続けています。当社はこれらに対応するため、常に最新の情報収集に努め、より確実な管理に向けてその仕組みの維持向上に努めています。



環境に配慮した製品開発



当社はご提供する製品を通して、人と地球に優しくありたいと思っています。

鉛を用いない製品や廃棄物を少なくするロングライフ製品、有害物質を用いないRoHS対応製品はもちろんのこと、わたしたちは人と地球の声に耳を傾け続けます。



グリーン調達



環境に優しい製品をご提供するために、生産に使用する原材料・容器・包装材、購入製品などの資材調達にあたり、環境負荷の小さい調達品の選定に向けて、グリーン調達基準を制定しています。当社が資材を選定する際は、従来の「品質」・「価格」・「安定供給」に「環境」を加え、総合的に判断しています。

12. お客様に安心してお選びいただける バリューチェーンづくり

ナミックスグループでは、お客さまに安心してお選びいただける購買・生産・販売のバリューチェーンの構築を重要課題ととらえています。ナミックスの目指す「お客さまからの信頼」を得る活動は、製品のみならずバリューチェーン全体に及ぶものです。

当社は、企業理念である「創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する」をもとに、販売拠点は、お客さまのニーズをいち早く汲み取り、グローバルネットワークを活用して情報共有を行い、販売活動を展開しております。

生産活動については、BCPの観点からも海外工場を含む、複数拠点化をしております。

購買活動においても、グローバル共通の「資材調達方針」を定めています。日本はもとより、お取引先様の国の社会規範を遵守するとともに、環境保全などの社会的責任を果たす取り組みを積極的に進め、良好なパートナーシップを築き、信頼関係のもと相互繁栄を目指しています。

ナミックスの資材調達方針



1 最適な資材の調達

品質・価格・安定供給の可能性・企業の信頼性・環境保全・紛争鉱物不使用など合理的且つ明確な基準をもって、取引先選定及び個々の取引を行います。

2 公正な購買活動と最適なコストの追求

原則として複数の取引先からの見積り合わせを行い、常に適正な競争の確保と最適なコストを追求していきます。

3 「グリーン調達」の推進

資源保護、環境保全に配慮した資材調達を推進します。

4 法規等の遵守

お取引先様の国の社会規範を遵守します。

5 情報の機密保持

購買取引を通じて知り得たお取引様の機密を保持します。

6 人権・労働・安全衛生への配慮

お取引先様の事業において基本的人権を尊重し、労働安全衛生の確保に取り組みます。

13. ダイバーシティ・サステナビリティの推進

ダイバーシティの推進



ナミックスグループは国際労働機関(ILO)による国際労働基準および各国の労働法規に則り、社員の人権を尊重するとともに法令遵守を徹底しています。

従業員のダイバーシティ

海外に販売拠点・生産拠点を有し海外売上高が約85%である当グループは、海外グループ会社での現地採用に加え、日本における外国人の採用にも取り組んでいます。

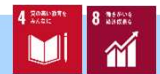
当社グループの従業員構成（2023年度末）

（人）

従業員数	国内拠点		台湾工場		その他海外拠点		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
社員	393	100	49	35	67	39	509	174
契約社員	94	72	0	0	0	0	94	72
パート	1	22	0	0	0	0	1	22
アルバイト	0	0	0	0	0	0	0	0
派遣社員	7	39	0	0	0	0	7	39
計	495	233	49	35	67	39	611	307
比率	68%	32%	58%	42%	63%	37%	67%	33%
合計	728		84		106		918	

※2023年度平均年齢：41.4歳（対象：派遣社員・役員除く）

人財の定着



専門的な商材を扱う当社では、人財の教育に加え、その定着も重要な課題です。

新規雇用者

（人）

離職者

（人）

区分	2021年度	2022年度	2023年度
社員	22	21	25
契約社員	22	17	27
パート	1	1	3
アルバイト	0	0	0
合計	45	39	55

区分	2021年度	2022年度	2023年度
社員	6	6	7
契約社員	9	15	26
パート	1	0	0
アルバイト	0	0	0
合計	16	21	33

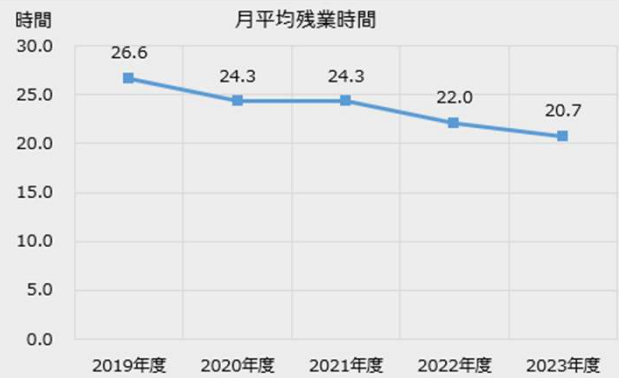
※ 2023年度平均勤続年数：14.7年（対象：派遣社員・役員除く）



時間外労働

当社では、新型コロナウイルス感染禍を機に働き方改革を推進して参りました。オンラインツールの活用により社内外とのコミュニケーションが容易になったことで、在宅勤務制度の導入や業務改善につながり、結果として、時間外労働は過去5年間で約6時間短縮されました。

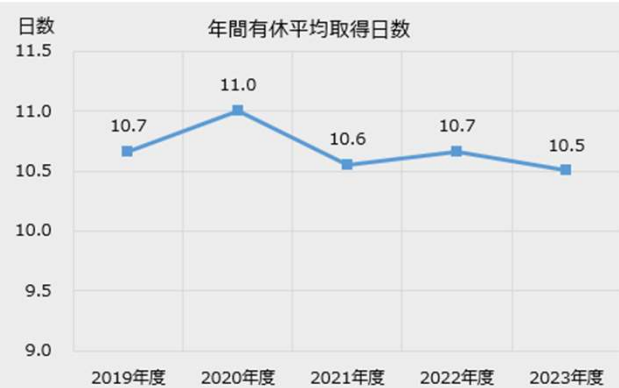
(対象：派遣社員・役員除く)



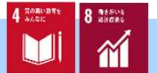
有給休暇

当社独自の年間カレンダーにより年間休日120日を原則としています。2019年4月の労働基準法改正による年間5日の有給休暇取得義務化以降、平均取得日数は年間11日前後で推移しています。今後も社員の健康維持とワークライフバランスの最適化を目指し有給休暇取得の推奨を進めて参ります。

(対象：派遣社員・役員除く)



人財育成



「ダイバーシティ」と「サステナブル」の考え方が世の中へ浸透するなか、人財育成のニーズも変わりつつあります。こうした環境変化を踏まえ、ナミックスではこれまで一般的に求められてきた個人としてのスキルやマインドを中心とした人財開発に加え、社員1人ひとりのエンゲージメント、それを育む組織開発とより良い組織風土の構築に育成の焦点を当てています。

当社の育成方針は、「良い会社の実現と従業員の豊かな人生づくり」を基本に掲げています。これに基づき、全社教育体系は、職位や役割に幅広く対応する階層別研修、専門知識や専門技術を習得する部門別研修、グローバルセンスを磨く国際化プログラムなどが、每期、計画的に運用され、従業員にダイバーシティで、サステナブルな成長機会を提供しています。



Well-being 研修会



国際化プログラムの外国語研修

女性活躍推進



女性活躍推進活動の一環として異業種の県内企業と合同の交流研修会を実施しております。異業種間での情報共有・人的ネットワークの創出、そして女性の更なる成長や活躍につなげるサポートを行うことで、これからのキャリアデザインの明確化及び新たに必要となるスキル・能力を再確認できる場となっております。

今後も性別や年齢などの属性にかかわらず、個性を尊重し、受け入れることができる「企業のダイバーシティ化」を推進して参ります。



事業所内保育園の運営

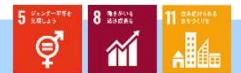


人財定着の取り組みの一環として2016年に開園した「えびがせ保育園アミック（新潟市東区海老ヶ瀬）」は、開園時4名だった社員のお子さんは2023年度は54名となり、今後も順次入園する見込みです。

また、定員の一部を「地域枠」として地域のお子さんを受け入れることで地域社会にも貢献しています。2023年度末時点での総園児数は105名となっています。

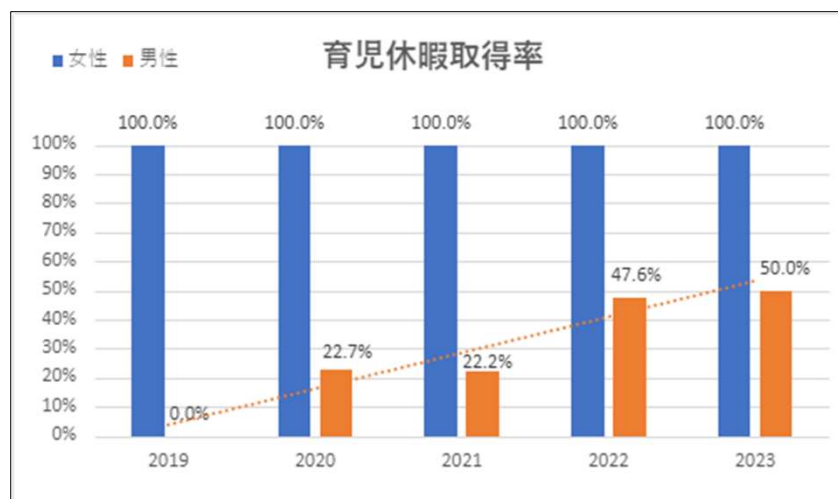


出産・育児休業後の就業



仕事と子育ての両立支援の取り組みにより2022年3月に厚生労働省から「くるみん認定」を受けました。

出産・育児休業後の復職率と定着率は直近3年間で男女ともに100%となっており、育児休業取得率も年々増加傾向にあります。



人権尊重、法令遵守



人権側面及び人間性向上に関する研修

人権尊重の取り組みの一環として、当社では人権側面及び人間性向上に関する研修を制度化しており、受講の状況は下記のとおりです。

人権側面及び人間性向上に関する研修の総時間数と受講者数の比率

区分	項目	2021	2022	2023	備考
総時間数	総受講者数（人）	—	276	306	※2021年度は感染症対策で全社研修は中止のため、対象なし。
	総時間数/全社（時間）	—	3,395	2,529	
受講比率	全社員数（人）	—	710	728	
	受講比率（%）	—	39%	42%	
参考指標	受講満足度（点）	—	4.5	4.4	アンケート 5点満点

報告相談窓口(ホットライン)の常設

当社は人権問題も含めた職場で発生する幅広い問題に対して、問題の把握と解決、適切なアドバイスを行うため、人事グループと顧問弁護士を報告相談窓口としてホットラインを設けております。

コンプライアンス基本方針 <CSR基本方針より>

- 関係法令、社内規程を遵守した企業行動を徹底します
- 公正・自由な競争・取引を行い、政治・行政・市民および諸団体との健全な関係を維持します
- 企業情報の適切な開示による透明性と個人・顧客情報の適正な管理を徹底します

● 緊急連絡先（休日時など）
電話：〇〇〇-×××-△△△

コンプライアンスホットライン

匿名でも受け付けます

- 社内窓口（利用時間 平日9:00～17:00）
電話：〇〇〇-×××-△△△
メール：〇〇〇@.co.jp
- 社外窓口【弁護士法人 中村・大城国際法律事務所】
電話：〇〇〇-×××-△△△
メール：〇〇〇@.co.jp

Topics



「プリツカー賞受賞 山本理顕 氏」設計の研究所

～ NTC（ナミックステクノコア）の設計者 山本理顕氏について ～

2024年建築界のノーベル賞とも称されるプリツカー建築賞を当社研究所NTC（ナミックステクノコア）を設計した山本理顕氏が受賞されました。

NTCは、2008年に竣工し、1階は実験室、2階はオフィス、ミーティングスペース、食堂からなる曲面ガラス張り構造となっております。



©Heather Hackney Photography for The Hyatt Foundation/The Pritzker Architecture Prize

< 略 歴 >

山本理顕（建築家・山本理顕設計工場）
 1945年 北京生まれ
 1968年 日本大学理工学部建築学科卒業
 2007-2011年 横浜国立大学大学院教授
 2018-2022年 名古屋造形大学学長
 2022-2024年 東京藝術大学客員教授
 2024年 神奈川大学客員教授、横浜国立大学名誉教授、日本大学名誉教授、プリツカー賞受賞、文化庁長官表彰（国際芸術部門）

< 主な作品 >

GAZEBO、埼玉県立大学、公立はこだて未来大学、横須賀美術館、The CIRCLE チューリッヒ国際空港、名古屋造形大学など。

プリツカー賞とは

才能、ビジョン、献身といった資質を兼ね備え、人類と建築に対して一貫して重要な貢献を果たしてきた現役の建築家を毎年、ハイアット財団（The Hyatt Foundation）が顕彰している賞。国籍・人種・思想・信条を問わず、1年に1人を表彰しています。

持続可能な未来への貢献へ

山本理顕氏は、建築界で革新的なデザインと持続可能な建築物の設計で知られる日本の建築家です。山本氏の作品は、伝統的な日本建築の美学と現代の技術革新を融合させた独創的なアプローチで注目されています。特に彼のプリツカー賞受賞作品では、その美しさと機能性、環境への配慮が高く評価され、世界中で賞賛されています。山本氏の建築は、建築の限界を超えた芸術的な表現と持続可能な未来への貢献を象徴しています。



NTC（ナミックステクノコア：研究所）

感性を刺激する空中オフィス

NTCは、当社が今後成長を続けるために、先端的な研究開発を行う設備と厳重なセキュリティ、さらに研究者の創造意欲を向上させる空間を形にした施設となります。

この場所で次世代-NEXTへの扉を開き、「オンリーワン・ナンバーワン」を目指して歩んで参ります。

14. 社会資本への投資

地域社会への貢献

ナミックスは、創業の地である新潟をはじめとして、各拠点に於いて地域社会との共存共栄を目指し、様々な取り組みを推進しています。

地域の安全：通学路の見守り活動



本社正門前を通学路とする児童の交通安全確保のため、通学と出勤が重なる時間帯に、当社社員によるボランティアメンバーが地域の子供たちの通学を見守っています。

実際に見守り活動を行ってみると、子供たちの安全の確保だけではなく、挨拶を交わすことで児童や保護者の皆さんと交流を図り、また活動を継続することで利用者の皆さんからの信頼を感じ、地域の一員としての当社の役割や存在意義を改めて認識しています。

今後も地元の安全・安心な環境づくりに貢献する活動を推進して参ります。



文化：「オーケストラはキミのともだち」への協賛



新潟市が主催する、子どものための芸術文化体験事業「オーケストラはキミのともだち」の協賛を行っています。

次代を担う子ども達のために、音楽の楽しさや文化芸術の素晴らしさの体験を通じて、豊かな感性や創造力を育む機会の創出を応援しています。



地域振興：地域活性化への取組



当社は、地域に密着した企業として共存共栄を柱に地域イベントへの支援のほか、中心街の賑わい創出を目的としたまちづくりへの参画など、地域活性化に繋がる様々な取り組みを通じ、地元のみなさまとともに持続可能な社会の実現を目指して参ります。



新潟まつり 民謡流しの様子

スライド 33

陸利0 トキエア以外の題材検討

陸 利也, 2024-08-20T06:11:40.761

佐藤0 0 地域連携コミュニティへの参画

地域活性化を目指すため、積極的に産金官学と連携し、先進的な取り組みについて情報共有をしています。昨年度はその中の1つとして当社社員を講師としてキャリア開発、ワークライフバランスなど自身の経験をセミナーで紹介しました。

これからも多様な人材が活躍する組織として活性化に繋がる活動に取り組んでまいります。

佐藤 倫子, 2024-09-05T03:18:40.974

スポーツ振興：アルビレックスのサポート



新潟のスポーツクラブ、アルビレックスへの応援を通じて、スポーツ振興に力を注いでいます。

＜サッカー＞
アルビレックス新潟
ユニフォームスポンサー
レディースオフィシャルスポンサー



＜野球＞
オイシックス新潟アルビレックス・
ベースボールクラブ オフィシャルスポンサー



＜バスケットボール＞
新潟アルビレックスB B
オフィシャルスポンサー



＜バスケットボール＞
新潟アルビレックスB Bラビッツ
オフィシャルスポンサー



スポーツを通じながら、次世代を担う子どもたちの育成として、子どもたちに夢や目標を持つ素晴らしさ、努力の大切さ、フェアプレー精神を伝える地域の青少年育成活動に力を注いでおります。



事業所内保育園でのサッカー教室



「えいご de バスケ」

青少年育成



科学技術に立脚する製品を扱う当社は、未来の科学技術の発展を担う青少年の育成を支援しています。

いきいきわくわく科学賞への協賛

子供たちに科学技術への興味を深めてもらうため、当社は毎年「いきいきわくわく科学賞」に協賛しています。そして県内最大級の科学賞として毎年約1,000もの力作の応募をいただいております。優秀な研究テーマの中から「ナミックス賞」を選考・授与しております。

今後もこのような活動を通して、身近な自然や現象に対する興味・疑問をきっかけに、科学の面白さ・不思議さを発見してもらい、次世代の創造性豊かな子どもたちの育成活動に力を注いで参ります。



人的資本経営・働きやすい環境の提供



創造性ある商品や高い生産性は、個人の力だけでなく、組織力によって達成されるものとナミックスでは考えています。そのため、創業時から、社員食堂を始め、組織力・チームワークの根底となるコミュニケーション促進のための施策を打って参りました。

社内コミュニケーションの活性化

コロナ過を経て、テレワークの活用やチャットツールなど非対面コミュニケーションが当たり前になっていますが、対面でこそ生まれるアイデアや価値の重要性は変わりません。

当社では社内コミュニケーションを促進する環境としてのオフィス空間づくりにも力を入れています。

▼多様なレイアウトの「カフェテリア」



▼オフィスへのコミュニケーション空間の配置





© NAMICS

ナミックス公式キャラクター：ナミー

対象範囲：ナミックス株式会社及び国内・海外の全事業所

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

発行：2024年 9月

お問い合わせ先

ナミックス株式会社 総務グループ CSR担当

〒950-3131 新潟市北区濁川3993番地

TEL 025-258-5577(代) FAX 025-258-5511

E-mail: soumu_1@namics.co.jp